

November 17, 2020

【前日の為替概況】ドル円、小幅に3日続落 NY 連銀製造業景気指数が予想を下回る

16日のニューヨーク外国為替市場でドル円は小幅に3日続落。終値は104.58円と前営業日NY終値(104.63円)と比べて5銭程度のドル安水準だった。欧州中盤に米製薬大手のモデルナが新型コロナウイルスのワクチンの最終治験で94.5%の有効性を得たと発表すると時間外のダウ先物が急伸。クロス円の上昇とともに、21時前には一時105.13円まで買い上げられた。ただ、一巡すると徐々に戻り売りに押される展開に。11月米ニューヨーク連銀製造業景気指数が予想を下回り、米10年債利回りが上昇幅を縮めたことも嫌気され104.50円近辺まで押し戻された。その後は引けにかけて104円台半ばで値動きが細った。

なお、米大統領選で当選を確実にした民主党のバイデン氏が大手企業のCEOなどとの会談後に会見を開き、「議会はできるだけ早く追加刺激策を可決すべき」「企業が公平な取り分を支払うことで、公平な税制を実現する」などと述べた。

ユーロ円は5営業日ぶりに反発。終値は123.95円と前営業日NY終値(123.85円)と比べて10銭程度のユーロ高水準だった。新型コロナワクチンの開発期待から株価急騰とともに一時124.44円まで上昇した。ただ、その後はドル円と同様の展開となり123.63円まで急失速した。一方、ダウ平均が約9カ月ぶりに史上最高値を付けるなど、株価が堅調に推移したことを支えとして一巡後は124円手前まで下げ渋った。

ユーロドルは3日続伸。終値は1.1852ドルと前営業日NY終値(1.1834ドル)と比べて0.0018ドル程度のユーロ高水準だった。ユーロ円が一転下落するにつれて1.1814ドルまで下げた。もともと、米株高を受けて下値は堅く、引けにかけては1.1850ドル台まで持ち直した。

【本日の東京為替見通し】ワクチンバブルはじけドル円は上値が重い、英首相は再自主隔離中

本日のドル円は上値が重い。株式市場の上昇にも円安に傾きにくくなっただけでなく、新型コロナウイルスのワクチン開発進展で起きるバブルもすでに弾けやすくなっている。昨日のドル円の上昇も一時的なものだったことを考えると、本日の上値は限られるか。

ドル円の買い材料としては米政権移行が進むことか。現時点ではトランプ米大統領が敗戦を認める兆候はないが、昨日は政権内でオブライエン大統領補佐官がバイデン氏の勝利を認めている。強硬なトランプ氏であるため、逆にオブライエン氏が解雇される可能性もあるが、外堀が徐々に埋まってきた場合はトランプ氏も渋々敗北を認めるかもしれない。

政権の移行が進むことは米国の政治にとっては明るい材料だが、感謝祭頃にはバイデン政権の主要閣僚指名が判明する可能性があり、財務長官をはじめ指名されるメンバーにより為替市場は神経質に動くかもしれない。バイデン氏は、財務長官には今まで男性が務めていたことから女性のブレイナード米連邦準備理事会(FRB)理事が有力としていたが、週末にはイエレン前FRB議長の名前が挙がっている。また、有色人種を採用するとうわさもありファーガソン元FRB副議長も候補となっている。

ドル円の上値を抑えるのは、米国で蔓延しているウイルス感染第2波だ。早朝にバイデン氏が追加刺激策の必要性や、米国で国民の移動が一番盛況になる感謝祭の人数制限などについて発言した。しかし、トランプ現大統領が何も行動を起こしていないことで、このまま感染の勢いが止まらず、支援策も進まない最悪な状況に陥るかもしれない。

ドル円以外では、昨日の値動きは狭かったが、欧州通貨は引き続き大きく動くリスクがありそうだ。早朝に商品先物取引委員会(CFTC)が主要な先物のポジション状況を発表した。11月10日時点でのユーロロングは若干減少したものの依然としてアマウントは大きい。ウイルスの感染は欧州で深刻で、米国よりもロックダウンも厳しいこともあり、経済的な痛みは計り知れない。また、ジョンソン英首相が再び自主隔離に入ったことも気がかりだ。欧州連合(EU)英国間の交渉は11月中旬が現実的な最終期限とされていたが、いまだに進展がない。19日にビデオによるEU会合が開かれるが、あと数日以内に進展があるか注目される。

なお、本日のアジア時間のイベントとしては、11月初旬に行われた豪準備銀行(RBA)理事会の議事要旨の発表が注目。昨日ロウRBA総裁が講演でマイナス金利についても言及したことで、政策金利についての詳細が議事要旨にどのように記載されているか注意したい。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

特になし

<海外>

- 09:30 ◎ 11月豪準備銀行（RBA）理事会議事要旨
- 16:00 ◎ 7-9月期ノルウェー国内総生産（GDP、予想：前期比4.4%）
- 21:00 ◇ 10月メキシコ失業率（季節調整前）
- 22:00 ◎ デギンドス欧州中央銀行（ECB）副総裁、講演
- 22:15 ◇ 10月カナダ住宅着工件数（予想：22.20万件）
- 22:30 ◇ 9月カナダ卸売上高（予想：前月比0.4%）
- 22:30 ◇ 9月対カナダ証券投資
- 22:30 ☆ 10月米小売売上高（予想：前月比0.5%/自動車を除く前月比0.6%）
- 22:30 ◇ 10月米輸入物価指数（予想：前月比0.2%）
- 23:00 ◎ ベイリー英中銀（BOE）総裁、講演
- 23:15 ◎ 10月米鉱工業生産指数（予想：前月比1.0%）
◇ 設備稼働率（予想：72.3%）
- 24:00 ◎ 11月全米ホームビルダー協会（NAHB）住宅市場指数（予想：85）
- 24:00 ◇ 9月米企業在庫（予想：前月比0.6%）
- 18日 01:00 ◇ 10月ロシア鉱工業生産（予想：前年比▲6.1%）
- 18日 02:00 ◎ ラムスデンBOE副総裁、講演
- 18日 05:00 ◎ ポスティック米アトランタ連銀総裁、デイリー米サンフランシスコ連銀総裁、カシュカリ米ミネアポリス連銀総裁、ローゼングレン米ボストン連銀総裁、講演
- 18日 05:00 ◎ バーキン米リッチモンド連銀総裁、講演
- 18日 06:00 ◎ 9月対米証券投資動向
- BRICS 首脳会議（テレビ会議）

18日

<国内>

- 08:50 ◎ 10月貿易統計（通関ベース）

<海外>

- 06:45 ◎ 7-9月期ニュージーランド（NZ）卸売物価指数（PPI）
- 07:00 ◎ ロウRBA総裁、パネルディスカッションに参加

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

16日 13:07 政井日銀審議委員

「金融緩和の長期化の副作用に配慮し、幅広い観点からの政策対応が重要」

「物価目標の実現がますます時間かかる可能性を強く意識」

16日 18:29 ロウ豪準備銀行(RBA) 総裁

「世界の主要中銀がマイナス金利の導入に踏み切れば、再考する」

「現状は、利上げを検討する環境ではない」

16日 20:10 ドイツ連邦銀行

「ドイツの10-12月期国内総生産(GDP)は、ゼロか縮小の可能性」

16日 22:43 スラック英首相報道官

「10項目から成るグリーンプランを今週中に発表する予定」

「EUとの協議では依然として著しい相違がある」

「より現実的なことを模索する」

17日 00:31 デギンドス欧州中央銀行(ECB) 副総裁

「新型コロナワクチンのニュースはマーケットにとって希望の光」

「第3四半期の経済は予想より弱い可能性」

「12月にあらゆる必要とされる措置の見直しを行う」

17日 04:16 クラリダ米連邦準備理事会(FRB) 副議長

「インフレの2%持続を確認するまで利上げはしない」

「債券購入の有効性を評価し続ける」

「大規模な資産購入は景気回復の実質的なサポートになっている」

「今のところイールドカーブコントロールについては考えていない」

「米10年債利回りの上昇は懸念していない」

「更なる財政・金融支援策は依然として必要」

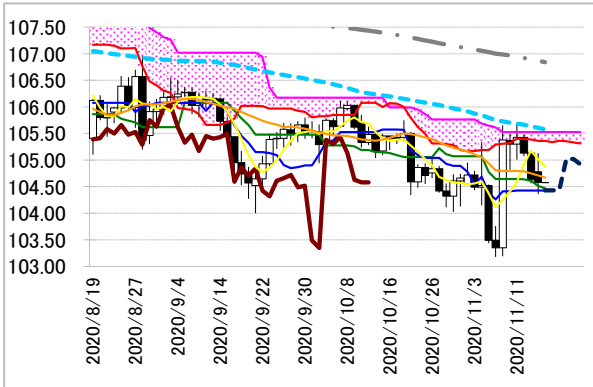
17日 04:24 デイリー米サンフランシスコ連銀総裁

「前回の危機から大胆に行動することがより良いと学んだ」

「気候変動や人種問題の解決は急がねばならないが段階的なステップを踏むべき」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

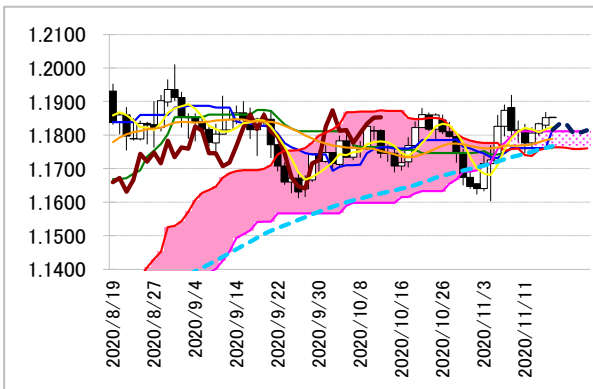


<ドル円＝転換線付近維持できるか注視>

小陰線引け。一時 104.36 円と、一目均衡表・転換線 104.43 円を割り込んだ。105.13 円まで反発したが、先週末 13 日高値 105.16 円を上抜くことができず押し返されている。

転換線付近を維持し、上昇が見込まれる同線とともに水準を切り上げる展開を狙う様相。転換線付近からの下振れを回避し、戻りを試すことができるか注視する局面にある。

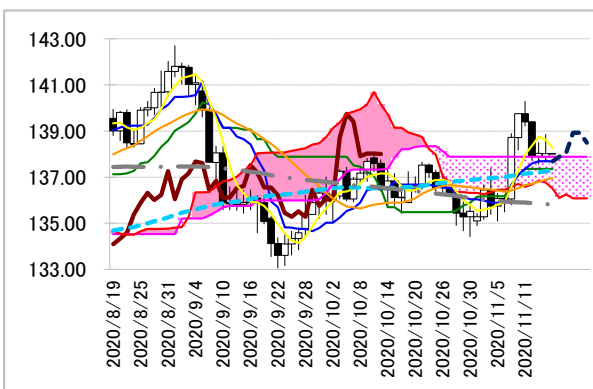
レジスタンス 1	105.13(11/16 高値)
前日終値	104.58
サポート 1	104.14(11/6-11 上昇幅の 61.8%押し)
サポート 2	103.59(11/16 反発幅の下方倍返し)



<ユーロドル＝下押しやや深めとなっても 21 日線などが支え>

小陽線引け。1.18 ドル台で上値を伸ばしきれないが、一目均衡表・転換線が本日 1.1816 ドルまで切り上がり、一目・雲の上限 1.1812 ドル前後のサポートを一時的にせよ強めそう。下押しが少し深めとなっても、やや下で推移する 21 日移動平均線が支えとなるだろう。1.1767 ドル前後で上昇中の 90 日線のサポートも期待でき、底堅さを維持するとみる。

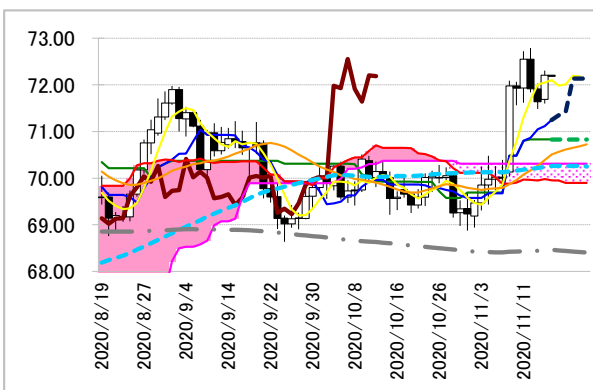
レジスタンス 1	1.1900(ピボット・レジスタンス 2)
前日終値	1.1852
サポート 1	1.1789(21 日移動平均線)



<ポンド円＝転換線とともに上昇する展開を見込む>

上影小陽線引け。一時 138.87 円まで上昇したものの押し戻されている。一目均衡表・雲の上限 137.88 円付近で戻りが鈍い。今後の上昇が予想される一目・転換線 137.69 円とともに、上昇する展開を見込む。転換線が頭打ちとなる前に上値を伸ばしきれず、同線とともに下押すことも考えられる。だが、一目・基準線や 137.29 円前後で推移する 90 日移動平均線が支えとなり、下落幅を限定するだろう。

レジスタンス 1	138.87(11/16 高値)
前日終値	138.02
サポート 1	137.35(日足一目均衡表・基準線)



<NZドル円＝12 日高値を克服できるか>

陽線引け。目先のすう勢を示す 5 日移動平均線を割り込んだ水準では底堅さを示し、72 円台で NY を引けた。5 日線は本日 72.10 円前後へ切り上がって推移。上向きの流れ持続を示唆している。上昇傾向を維持している転換線も現水準付近の底堅さが続くとの見方を支援。ただ、12 日に伸び悩んだ 72.79 円を克服しきれなければ、まだ低位にある転換線 71.25 円付近まで調整を急速に強めるだろう。

レジスタンス 1	72.79(11/12 高値)
前日終値	72.21
サポート 1	71.77(ピボット・サポート 1)

